

第二回禁止条約締約国会議に向けて草の根の行動を！ 核兵器のない世界、非核平和の日本実現へ力をつくそう

国連軍縮週間 署名行動のご案内 (県原水協)

10月26日(木) 16時~17時 ハマクロス前

年内にも総選挙が濃厚になってきている中、「国際会議宣言」では、今の日本の大軍拡、核兵器に対する態度は根本に日米軍事同盟を絶対視する政治があるためである。これをかえる日本の世論と運動が求められている。署名を中心に草の根から国民の世論を結集し攻勢にたたかおうと呼びかけています。ご参加ください。



署名にご協力ください

日本政府は
核兵器禁止条約に署名批准を

「唯一の戦争被爆国
日本政府に核兵器禁止条約
の署名・批准を求める署名」

11月7日午後 衆議院議員会館で3度目の署名の共同提出の集いを開催します。長崎からも署名運動の飛躍をつくり、地域団体で集約して署名現物を下記県原水協へ11月3日までに届けてください。

県原水協として、署名の共同提出に参加する代表に託します。

12月16日(土) 14時~16時 予定で
武本匡弘さんによる環境問題の講演会を計画しています。
講演の内容について等ご意見ください。

核兵器のない平和で公正な世界を 原水爆禁止長崎県協議会ニュース 2023.10.18

〒850-0035 長崎市元船町5-11-402 TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102

事務局 佐藤 (090-9580-9739)

「人びとの志と願い」を一筆一筆に

NPO気候危機対策 ネットワーク代表理事 武本匡弘

「禁止条約参加者」共同よびかけ人の武本匡弘さんから第3次共同提出に向けてコメントをいただきました。

「地球沸騰期」

猛烈な暑さがつづく夏曰く、「地球は温暖化どころか沸騰期に入っただ」というグテーレ・ス国連事務総長の言葉に象徴される「気候危機」がますます現実的

「禁止条約参加者」共同よびかけ人の武本匡弘さん、今夏のことの猛暑はこれで終わるわけではなく、来年もその先も暑くなりつつ、このままでは「地球の気候は臨界期を迎える」と言われています。

・5℃までに抑えようという国際協調での枠組みに対して、世界はその軌道に乗っていないのは明らかです。
1.5℃を超えるとこの世の終わり?

「地球の平均気温は、すでに1・1℃高くなっている」という見解はもう8年も前のこと、現状はすでに1・3℃に近いと考えられています。(※)
さらに、せめて1

ようが、考えるべきことは、いまだに「この世の終わり」に等しいような災害に見舞われている人びとが、この地球上にどんどん増えているという現実です。

マーシャル諸島では

大潮の満潮のたびに家のなかにまで海水が流れ込み「海が迫ってきている」と島民に恐怖と絶望感が広がっています。
森林火災、集中豪雨や洪水、干ばつなどに襲われている人びとは

いるということに気が付き始めました。それは、気候危機も核廃絶平和運動も国際社会が協力しつづけることこそが、すべての生物、そして地球そのものを生存させるために欠かせない行動であると確信し始めたという事です。



まさにこの全人類的な課題である「気候危機」に立ち向かう行動を起こし始める人びとめた人びとは、戦争や紛争もこれらの危機を再生のためにIPC加速させて

猛暑のなかでの駅頭や、街頭、イベント会場などで署名を呼び掛ける人びとに変化が見え始め、世代や活動分野を超えた大きなうねりになってきていることは間違いありません。(※) 国立環境研究所 江守成多 「気候再生のために」IPC